

ナース・オブ・ザ・イヤー授賞式



『ナース・オブ・ザ・イヤー 今年最も輝いた看護職員』は、表彰を開始して本年度12年目を迎えました。この賞は、前年度1年間看護師が看護活動の様々な分野で人一倍頑張り、病院や患者さんの看護に貢献したことを同僚に認められ、さらに看護部内で審議し、選考されるものです。



今回は4名の看護師が選ばれました。いずれの看護師も当看護部ではリーダーシップを発揮する中堅看護師であり、部署の教育や課題解決に取り組み成果のあった看護師達です。決して一人で成しえたわけではありませんが、4人のリーダーシップは非常に重要であったと思います。今後も、この賞を励みに、さらに頑張ってくれることを期待しています。

Nurse of the Year 2018



NURSE 高度救命治療センター 井戸田 夏季 *Natsuki Idota*

このような賞に選んでいただき、大変光栄な気持ちです。看護師としても、人間としてもまだまだ未熟な私が、このような賞を頂けたのは、高度救命救急センター看護師長をはじめ、沢山の尊敬する先輩方、一緒に頑張ってきた同期や後輩、そして患者さんといった多くの方々にお世話になり教えて頂いた事のおかげだと心から感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。今後もこの賞を頂けた事に対する光栄な気持ち、関わってくださる周囲への感謝の気持ちを大切に、日々の学びを積み重ね、成長していきたいと思っています。本当にありがとうございました。



NURSE 東8階 吉村 尚子 *Naoko Yoshimura*

今回このような素晴らしい賞を頂きましてありがとうございました。たくさんのご指導とサポートをしてくださった管理者の方々、病棟スタッフにとっても感謝しています。昨年度は、アドバンス・ケア・プランニングを用いた看護に取り組みました。患者さんの価値観や人生において大切にしていることが尊重された看護、入院という一時点ではなく、その後の療養生活にも活かされる切れ目ない看護ケアの実践について学びを深めることができました。患者さんのために看護師としてできることを探求する中で、自分の看護観を見つめ直す機会にもなりました。今後も心のこもった温かい看護を目指し日々努力していきたいと思っています。



NURSE 東5階 大江 万紀子 *Makiko Oe*

この賞が頂けたのは、自分の力だけでなく、何よりも上司や東5階のスタッフが協力して、夜勤始業前労働削減に向けた取り組みや物品管理の取り組みを行ってくれたおかげであると実感しています。「リーダーのあり方」の研修を通して私は、よきリーダーシップを発揮するためには業務遂行能力（職位にふさわしい看護技術や知識）と、リーダー感覚（人を動かす力）が大切であると学びました。今後も第一は患者さんのために、そして自分たちにとっても働きやすい環境づくりを目指し、様々なラダーレベルの看護師を巻き込みながら、スタッフみんなで日々精進していきたいと思っています。



NURSE 西9階 和田 称子 *Shoko Wada*

今回の受賞の知らせを聞いた時、「私なんて…」と恐縮する反面、自身の活動を見守ってくださる方がいることを嬉しく思いました。そしてこれからの自身の行動に、今まで以上に責任を持ち、周りで支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れず自身の看護を邁進していきたいと思っています。昨年度は実地指導者、退院調整係としてスタッフの指導や部署の基準の見直しを行いました。部署異動したばかりで、スタッフと一緒に勉強しながらの係活動でした。これからも周りの方々と共に成長していきたいと思っています。ありがとうございました。

※アドバンス・ケア・プランニング(今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス)